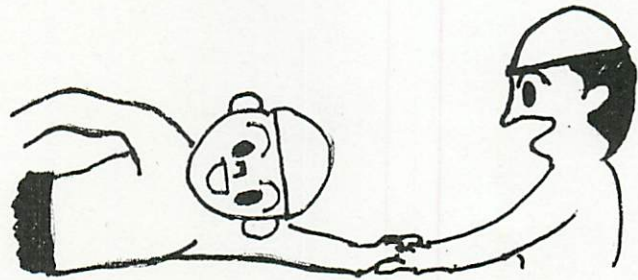


第4学年「浮く・泳ぐ運動」

単元名 「うきうき！ すいすい！



ぐんぐんぐん！」



東京都小学校体育研究会テーマ

「一人一人が学ぶことの楽しさを味わい、進んで運動に取り組む力を身に付ける体育学習」

水泳系領域部会テーマ

「一人一人が学ぶことの楽しさを味わう浮く・泳ぐ運動の学習」

授業者 品川区立小中一貫校豊葉の杜学園

齋藤正樹教諭、瀬川正俊主幹教諭、永作友里恵教諭、

山本蓉教諭、

日高剣斗オリンピック・パラリンピック教育非常勤講師

講師 教育庁指導部指導主事

山口 信忠 先生

1 研究の構想

(1) 研究主題

小体研研究主題

「一人一人が学ぶことの楽しさを味わい、進んで運動に取り組む力を身に付ける体育学習」

水泳系領域部研究主題

「一人一人が学ぶことの楽しさを味わう、浮く・泳ぐ運動の学習」

(2) 主題設定の理由

本部会では、平成24年度で5年生、平成25年度で6年生において、3人組小集団による学び合い活動を活用して自己の課題解決を図る学習を行った。その結果、互いの動きを見合って助言するなど、思考・判断の力を伸ばし、その結果泳力の向上につなげることができた。一方で、6年間で学び合いの質を更に高めるためには、低・中学年から段階的に学び合いの方法を身に付けていくことが必要であることが課題としてあがった。

昨年度は、高学年につながる中学年での学び合いの系統性を考え、4年生において、「学ぶことの楽しさ」を味わうための学習内容や教材に焦点を当てて研究に取り組んだ。それが、学習の意欲につながり、進んで運動に取り組む力を伸ばし、一人一人の泳力を向上させることができると考えた。今年度は、中学年での学び合い活動をさらに工夫し、より自分の力にあった課題をつかみ、その課題を解決していく学習を通して学ぶことの楽しさを味わえる学習とするよう、本主題を設定した。

① 「一人一人」のとらえ方

昨年度、東京都内の小学4年生を対象に行った実態調査では、一人で浮くことができない児童から50m以上泳げる児童までおり、中学年においても泳力差が大きいことがわかった。また、浮く・泳ぐ運動に対する興味・関心も多岐に渡っている。この幅広い泳力差などに対応するため、初歩的な泳ぎの段階的な指導や単元計画などを工夫し、より個に応じた指導を行うことが必要になってくる。

② 「学ぶことの楽しさを味わう」のとらえ方

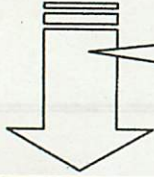
水泳系の運動の楽しさは、「水中で体を動かすことの楽しさ」「できる・わかる楽しさ」があり、各学年の発達段階や個々の泳力によって異なってくる。この楽しさを、友達と協力しとかかわり合いながら学習することで、見合う、励まし合う、伝え合う、教え合うといった「友達と学び合う楽しさ」になる。それが、課題解決学習の楽しさを味わうことにつながり、進んで浮く・泳ぐ運動の学習に取り組む力を身に付けることができると考えた。

《水泳系の運動の楽しさ》

- 水に入る心地よさ ○水中で体を動かすこと
- 水中で活動すること（音楽に合わせる ゲームをする）
- 泳げるようになった ○新しい泳ぎができた
- めあてが達成できた ○上手に泳げた ○より長く泳げた

体を動かす楽しさ

できる・わかる楽しさ



友達とかかわり合って活動する楽しさ

- 一緒に活動する ○補助し合う ○励まし合う
- 動きを見合う ○伝え合う ○教え合う

《水泳系における学ぶことの楽しさ》

友達とかかわり合いながら、自分の課題を解決していく楽しさ

(3) 研究仮説

「小学校6年間の発達段階を大切にしたい、系統的・弾力的な単元の全体計画」「3人組での学び合い活動を中心とした、課題解決を図る単元計画」「一般化するための重点化・簡略化された評価計画」「児童の課題解決の力を伸ばす学習資料」を工夫すれば、児童は浮く・泳ぐ運動の学習における学ぶことの楽しさを味わい、学習の意欲が向上し、自己の課題を解決する力が身に付くであろう。

(4) 研究の視点

① 課題解決的な単元計画

- 小学校6年間の発達段階を大切にしたい、系統的・弾力的な単元の全体計画
- 3人組での学び合い活動を中心とした、課題解決を図る単元計画
 - ・楽しみながら気付いたり実感したりする活動
 - ・自分の力に合った課題をしっかりとつかむための共通課題学習
 - ・3人組で学び合いながら自己の課題解決を目指す小集団学習

② 学習活動に即した評価

- 一般化するための重点化・簡略化された評価計画
- 児童の課題解決の力を伸ばす学習資料
 - ・練習方法の資料の工夫
 - ・学習カードの工夫

③ 幼稚園・保育所と小学校の連携

- 幼稚園・保育所における水遊びの実態調査
- 調査に基づいた第一学年における学習内容の精選・指導方法の工夫
 - ・水に慣れる遊び
 - ・浮く・もぐる遊び

(5) 研究構想図

東京都小学校体育研究会 研究主題

「一人一人が学ぶことの楽しさを味わい、
進んで運動に取り組む力を身に付ける体育学習」

水泳系領域部研究主題

「一人一人が学ぶことの楽しさを味わう、浮く・泳ぐ運動の学習」

基礎研究

- ・過去の先行研究を検証
- ・平成24・25年度の研究の系統性を踏まえた学び合いの検証
- ・昨年度の成果と課題の検証

調査研究

【児童の実態・意識調査から】(平成26年度実施)

- ・クロール、平泳ぎ両方で25m以上泳げる児童から、伏し浮き、け伸びで5mしか泳げない児童まで、泳力が幅広い。
- ・友達と一緒に活動したり泳ぎの練習をしたりすることが楽しいと感じている児童が多い。
- ・友達と泳ぎのアドバイスをし合っているときが楽しいと答えている児童は10%程度である。

【教員の意識調査から】(平成24年度実施)

- ・低学年において、泳法の指導を行っている学校が多い(特に2年生)
- ・全学年を通して、ほとんどの学校が、全員一斉の学習を中心に行っている。
- ・小集団での学び合い学習を行っている学校が少ないことから、教師主導の学習を行っている学校が多いと思われる。

研究の仮説

「小学校6年間の発達段階を大切にしたい、系統的・弾力的な単元の全体計画」「3人組での学び合い活動を中心とした、課題解決を図る単元計画」「一般化するための重点化・簡略化された評価計画」「児童の課題解決の力を伸ばす学習資料」を工夫すれば、児童は浮く・泳ぐ運動の学習における学ぶことの楽しさを味わい、学習の意欲が向上し、自己の課題を解決する力が身に付くであろう。

研究の視点

①課題解決的な単元計画

- 小学校6年間の発達段階を大切にしたい、系統的・弾力的な単元の全体計画
- 3人組での学び合い活動を中心とした、課題解決を図る単元計画

②学習活動に即した評価

- 一般化するための重点化・簡略化された評価計画
- 児童の課題解決の力を伸ばす学習資料

③幼稚園・保育所と小学校の連携

実証授業 平成27年6月30日(火)

品川区立小中一貫校豊葉の杜学園 第4学年 浮く・泳ぐ運動

「うきうき!すいすい!ぐんぐうん!」

2 水泳系の運動について

(1) 2年間ごとの内容の構成

	低学年	中学年	高学年
領域	水遊び	浮く・泳ぐ運動	水泳
指導の内容	水に慣れる運動遊び 浮く・もぐる遊び	浮く運動 泳ぐ運動	クロール 平泳ぎ

(2) 2年間ごとの指導の目標

	低学年「水遊び」	中学年「浮く・泳ぐ運動」	高学年「水泳」
技能	次の運動を楽しく行い、その動きができるようにする。 ○水に慣れる遊びでは、水につかたり移動したりすること。 ○浮く・もぐる遊びでは、水に浮いたりもぐったり、水中で息を吐いたりすること。	次の運動を楽しく行い、その動きができるようにする。 ○浮く運動では、いろいろな浮き方やけ伸びをすること。 ○泳ぐ運動では、補助具を使つてのキックやストローク、呼吸をしながらの初歩的な泳ぎをすること。	次の運動の楽しさや喜びに触れ、その技能を身に付けることができるようにする。 ○クロールでは、続けて長く泳ぐこと。 ○平泳ぎでは、続けて長く泳ぐこと。
態度	運動に進んで取り組み、仲よく運動をしたり、水遊びの心得を守って安全に気を付けたりすることができるようにする。	運動に進んで取り組み、仲よく運動をしたり、浮く・泳ぐ運動の心得を守って安全に気を付けたりすることができるようにする。	運動に進んで取り組み、助け合つて水泳をしたり、水泳の心得を守って安全に気を配ったりすることができるようにする。
思考・判断	水中での簡単な遊び方を工夫できるようにする。	運動に進んで取り組み、助け合つて水泳をしたり、水泳の心得を守って安全に気を配ったりすることができるようにする。	自己の能力に適した課題の解決の仕方や記録の挑戦の仕方を工夫できるようにする。

(3) 2年間ごとの授業づくりのポイント

【低学年】

「水中でのリラックス、浮く、もぐる、呼吸する、進む」感覚や動きを身に付けられるよう、ねらいをもった運動遊びを行います。2人組や小集団、全員で行える水遊びを行うことで、友達と仲よく運動するとともに、友達のよい動きを見付け、自分もやってみるなど、思考・判断面の力もつけられるようにします。

【中学年】

「浮く運動」では、いろいろな浮き方を楽しんだり、全身の力を抜いて浮いたりすることができるよう指導します。そのために、浮く・泳ぐゲームやより良い浮き方に気付いたり実感したりする活動を取り入れます。

「泳ぐ運動」では、手と足のバランスのよい泳ぎや呼吸をしながらの初歩的な泳ぎを身に付けるよう指導します。一つ一つの動きを確かめながら行い、自分の課題をつかむようにします。自分の課題に応じて練習方法や場を選択し、友達と学び合いながら学習します。

【高学年】

「クロール」「平泳ぎ」で心地よく泳いだり、泳ぐ距離を伸ばしたりする楽しさを味わわせるために、手や足の動きのポイントや呼吸の仕方などを指導します。一つ一つの動きのポイントを理解しながら取り組み、自分の課題をつかむことができるようにします。一人一人の課題に合った練習方法や場を選択したり工夫したりし、友達と学び合いながら学習します。

(4) 2年間ごとの指導計画例

低学年の場合は、2年生で楽しみを広げる時間を多く設定し、遊び方や動きを工夫する活動を重点的に行うようにします。水に慣れる運動遊びは全員で行い、浮く・もぐる遊びは2人組や小集団のグループで活動します。


中学年の場合は、今もっている力で楽しみながら、浮く動きを実感したり、浮く・泳ぐゲームなどを行ったりする活動に取り組みます。また、友達の動きを見て、めあてのできばえを伝える活動を行いながら、呼吸をしながらの初歩的な泳ぎを身に付けていきます。

高学年の場合は、クロールや平泳ぎなどの泳法を身に付けたり泳力の向上を目指してきます。友達の動きを見て、課題解決のための助言をしながら学習に取り組みます。

【第1学年、第2学年の例】

段階	楽しむ (1年生 1~5時 2年生 1~3時)	楽しみを広げる (1年生 6~10時 2年生 4~10時)
学習内容	水に慣れる遊び ・リズム水遊び ・電車ごっこ ・水かけっこ ・鬼遊び ・リレー遊び など	
	浮く・もぐる遊び 1 (2~3人組) ・浮く遊び ・バブリング ・ポビング ・水中ジャンケン ・石拾い ・補助具(輪など)を使った水遊び など	浮く・もぐる遊び 2 (4~6人組) ・補助具などを使った水遊び ・補助具や場を選択した水遊び ・友達のよい動きを見付ける。

【第3学年、第4学年の例】

段階	つかむ (3年生 1~5時 4年生 1~3時)	取り組む (3年生 6~10時 4年生 4~10時)
学習内容	今もっている力で楽しむ (水慣れ・感覚づくり) ・リズム水泳 ・浮く・泳ぐゲーム、楽しみながら気付く活動 など	
	もう少しでできそうな動きを知り、取り組む ○浮く運動 ○泳ぐ運動 (2~3人組) ・伏し浮き など ・初歩的なクロール ・け伸び ・初歩的な平泳ぎ 3年生  4年生	もう少しでできそうな動きに取り組む (2~3人組) ○練習方法や場を選択して浮く・泳ぐ運動に取り組む ・いろいろな浮き方 ・呼吸をしながらの初歩的な泳ぎ など

【第5学年、第6学年の例】

段階	つかむ (5年生 1~4時 6年生 1~2時)	取り組む (5年生 5~10時 6年生 3~10時)
学習内容	今もっている力で楽しむ (水慣れ・感覚づくり) ・リズム水泳 ・リラックス水泳 ・○分間泳 ・スイム駅伝などの競争、かつ達成的な運動	
	共通課題学習 (2~3人組) ・共通課題のもと運動のポイントを知ったり、課題をつかんだりする	課題別学習 (2~3人組) ・個々の課題に応じて、小集団で見合いながら、課題解決を図る

3 「思考・判断」の指導内容

(1) 6年間での、「思考・判断」の目標及び評価規準

	低学年「水遊び」	中学年「浮く・泳ぐ運動」	高学年「水泳」
思考・判断の目標	水中での簡単な遊び方を工夫できるようにする。	自己の能力に適した課題をもち、動きを身に付けるための活動を工夫している。	自己の能力に適した課題の解決の仕方や記録の挑戦の仕方を工夫できるようにする。
単元の評価規準	水中での運動遊びの行い方を工夫している。	自分の力に合った課題をもち、動きを身に付けるための運動の行い方を工夫している。	自分の力に合った課題の解決を目指して、練習の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫している。
学習活動に即した評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ①リズム水遊びの行い方を理解している。 ②水に慣れる遊びや浮く・もぐる遊びの行い方を理解している。 ③水につかったときの動き方や水に浮いたりもぐったりする動き方を理解している。 ④楽しく遊ぶことができる場や用具を選び、遊び方を工夫している。 ⑤友達のよい動きを見付けて、自分で動きを模倣したり、言葉で伝えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①リズム水泳、共通課題の行い方を理解している。 ②共通課題のポイントを知り、理解している。 ③小集団での学び合いや浮く運動や泳ぐ運動の動きを身に付けるための練習の仕方を知り、理解している。 ④めあてのできばえを確かめている。 ⑤初歩のクロールや平泳ぎのポイントを知り、自分の課題を見付けている。 ⑥自分の課題に合った練習方法や練習の場を選んでいる。 ⑦友達の泳ぎを見て、めあてのできばえを伝えたり、課題を言葉で伝えたりしている。 ⑧運動のポイントや友達からの助言を意識しながら泳いでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①リズム水泳、共通課題の行い方を理解している。 ②共通課題のポイントを知り、理解している。 ③小集団での学び合いやクロール、平泳ぎの動きを身に付けるための練習の仕方を理解している。 ④めあてのできばえを確かめている。 ⑤共通課題学習をもとに、自分の能力に合った課題をつかんでいる。 ⑥自分の課題に合った練習方法や練習の場を選んだり練習方法を工夫したりしている。 ⑦友達の動きを見てめあてのできばえや課題解決のための適切な助言を言葉で伝えている。 ⑧友達の助言を参考に、自分の泳ぎの課題を見付けて泳いでいる。

(2) 具体的な学習活動の例

【第4学年の例】

時	つかむ段階					取り組む段階					
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	オリエンテーション										
	リズム水泳										
	楽しみながら気付いたり実感したりする活動										
	共通課題学習					小集団での自己の課題解決学習					技能の向上を確認
	1時	2時	3時	4時	5時	平泳ぎ系の課題	クロール系の課題				
	初歩のクロールの足と手の動き	呼吸しながらの初歩のクロール	初歩の平泳ぎの足と手の動き	呼吸しながらの初歩の平泳ぎ	自分の力と課題をつかむ	・平泳ぎの足や手の動き	・クロールの足や手の動き				
						・呼吸をしながらの初歩の平泳ぎ	・呼吸をしながらの初歩のクロール				
						・平泳ぎ(発展)	・クロール(発展)				
	確かめ泳					確かめ泳					振単り元返のり

【楽しみながら気付いたり実感したりする活動】

教師が提示した動きを知り、3人組で協力して取り組む。浮きやすい姿勢や呼吸の仕方などについて気付いたり、考えたり、実感したりする。

活動例 「より進むけ伸びの仕方を考えよう」

教師の声かけ例

- ・腕はどうしたらいいかな？
- ・もぐってから壁を蹴った方がいいかな？浮いたまま蹴った方がいいかな？
- ・(よく進んだ児童に対して) 何がよかったのかな？

【共通課題学習】

初歩的な泳ぎの動きのポイントや練習方法を知り、自分の力に合った課題をつかむ。また、補助の仕方や練習時に見るポイントを知る。

活動例 「面かぶり手だけクロール」

教師の声かけ例

- ・手は前でそろっているかな。
- ・親指でももをさわっているかな。

【小集団での自己の課題解決学習】

3人組で、互いに補助したり、動きを見合ったりできばえを伝え合ったりしながら、共通課題学習で得た知識などを生かし、自己の課題に応じた練習方法や場を選択して取り組む

教師の声かけ例

(見ている児童に)

- ・親指がももにつくといいね。伝えてあげよう
- ・け伸びのしせいのときに、頭が入っているか伝えてあげよう。

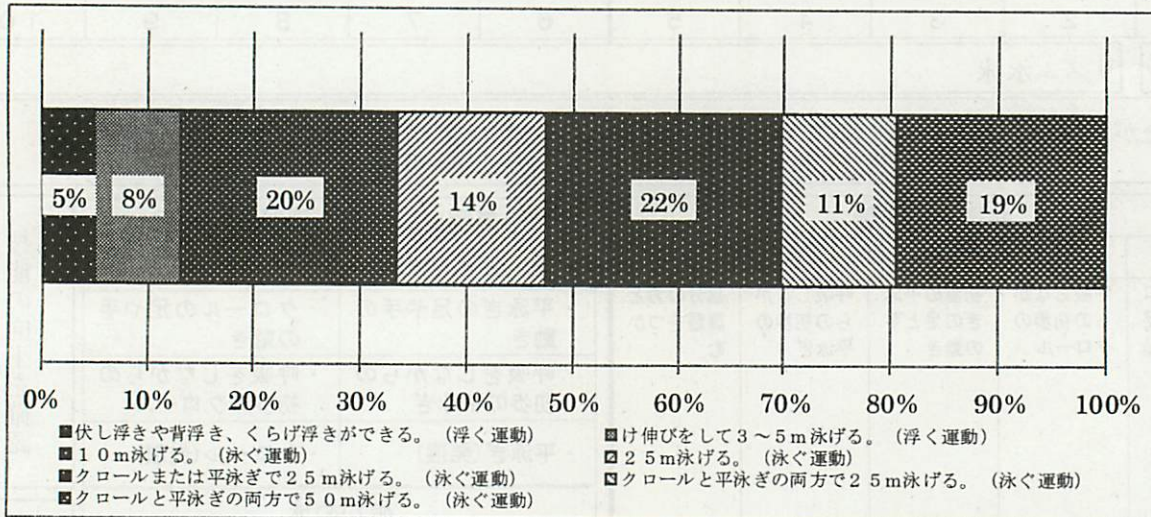
(泳力の低い児童に)

- ・呼吸の仕方が上手な友達を見て、どうしたら呼吸ができるか考えよう。
- ・平泳ぎの手のかきの後、手がどうなっているか見てみよう。

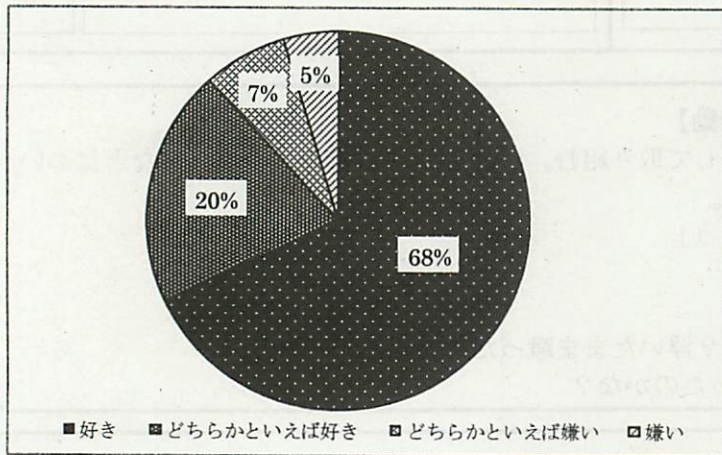
4 実態調査及び考察

①都内小学校4年生の実態・意識調査（東京都小学校4年生1190人 平成26年6月実施）

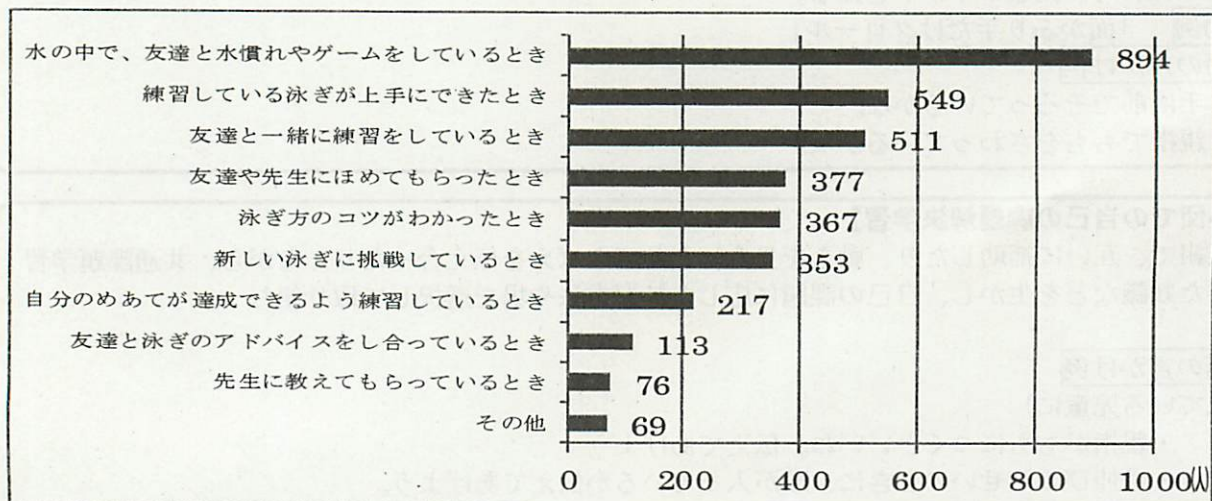
○泳力の実態調査（図1）



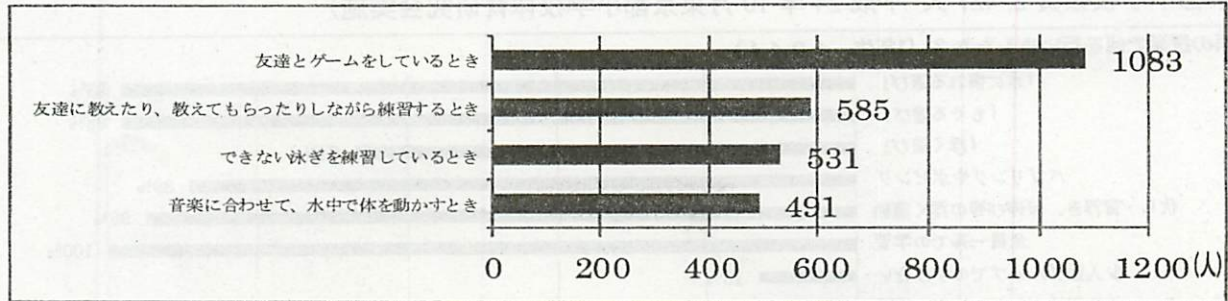
○浮く・泳ぐ運動の学習は好きですか。（図2）



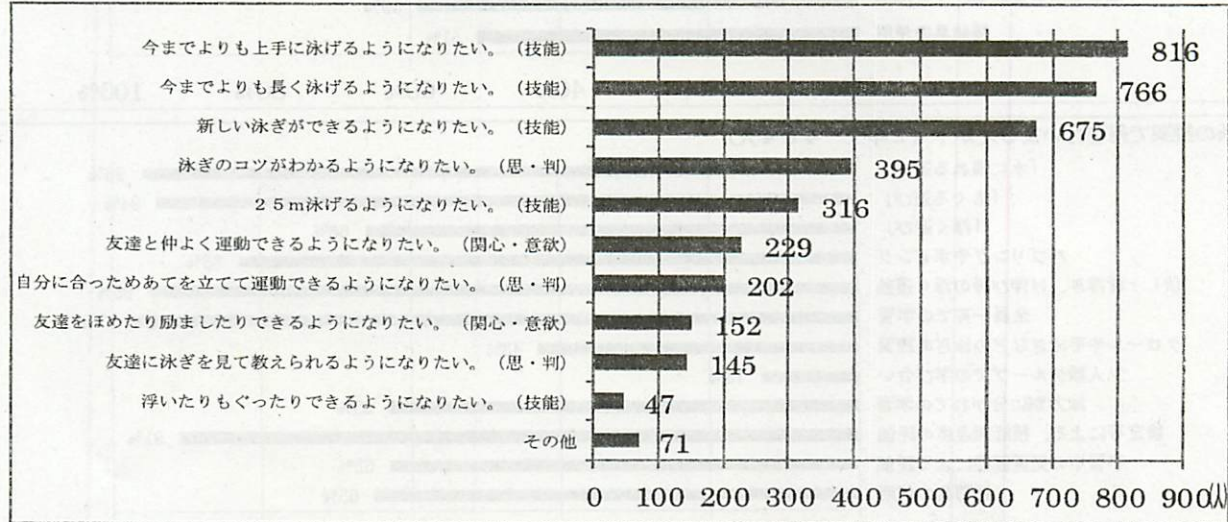
○どんなときに、浮く・泳ぐ運動の学習が楽しいと感じますか。（3つまで）（図3）



○どんな活動をしているときに楽しいですか（複数回答）（図4）



○浮く・泳ぐ運動の学習で、どんなことを身に付けたいですか。（図5）



〈分析〉

- クロール、平泳ぎ両方で2.5m以上泳げる児童が30%いる一方で、2.5m泳げない児童が33%いる。（図1より）
- 88%の児童が、浮く・泳ぐ運動の学習に対して肯定的に考えている。（図2より）
- 浮く・泳ぐ運動で楽しいと感じるときは、「友達と一緒に水慣れやゲームをするとき」が一番多く、「友達と一緒に練習するとき」も、半数近くが楽しいと答えている。一方で、「友達と泳ぎのアドバイスをし合っているとき」と答えている児童は10%程度である。（図3より）
- 「泳ぎが上手にできたとき」は46%、「泳ぎのコツがわかったとき」は30%以上の児童が楽しいと答えている。（図3より）
- 楽しいと感じる活動について、「友達とゲームをしているとき」は90%、「友達と教え合っているとき」は49%の児童が、楽しいと答えている。（図4より）
- 浮く・泳ぐ運動の学習で身に付けたいことは、「上手に泳げるようになりたい」が68%、「長く泳げるようになりたい」が64%、「新しい泳ぎができるようになりたい」が57%と、技能面が上位3つを占めている。（図5より）

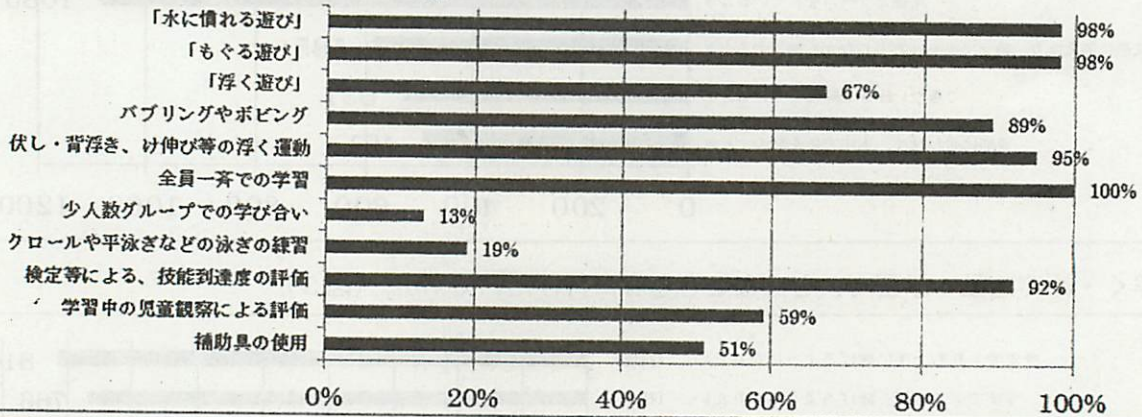
〈考察〉

- 児童の泳力の個人差が大きいことから、一人一人の泳力に応じた場や指導の工夫を行うことが必要である。
- 友達とかかわり合って運動することの楽しさを感じている児童が多いことから、今もっている力で楽しむ時間や、友達との学び合いによる課題解決学習を取り入れた単元計画の工夫を行う必要がある。

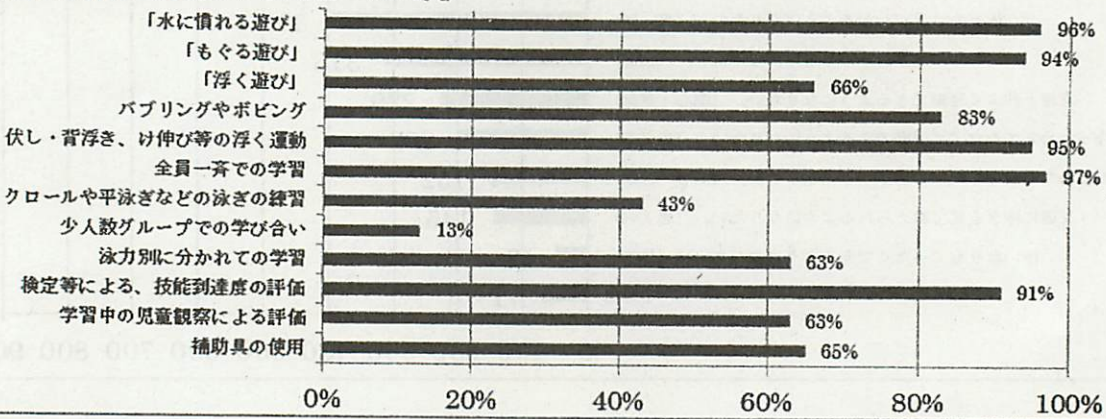
② 小学校教員の水泳指導についての実態

(東京都小学校教員 2,427 人 平成 24 年 10 月東京都小学校体育研究会実施)

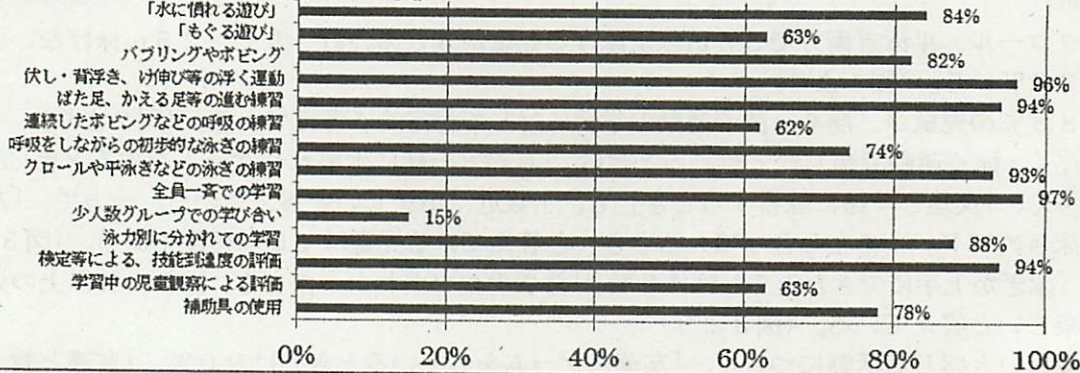
水泳系の授業で何を行いましたか？(1年生 404人)



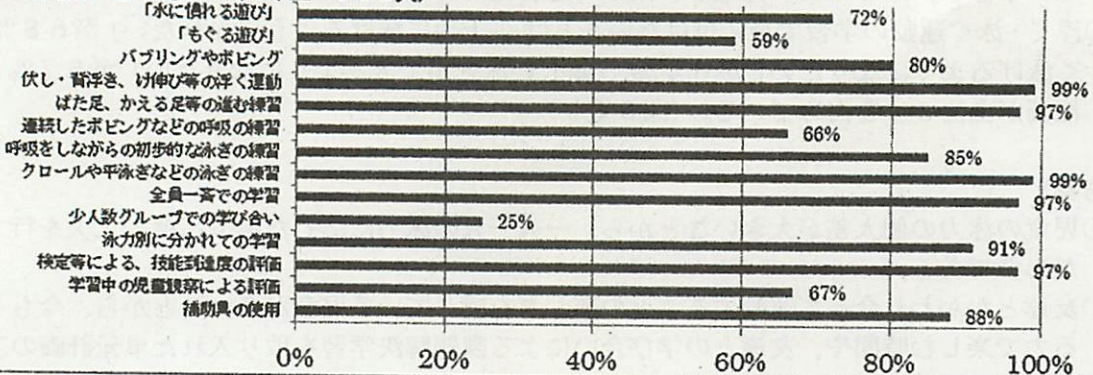
水泳系の授業で何を行いましたか？(2年生 404人)

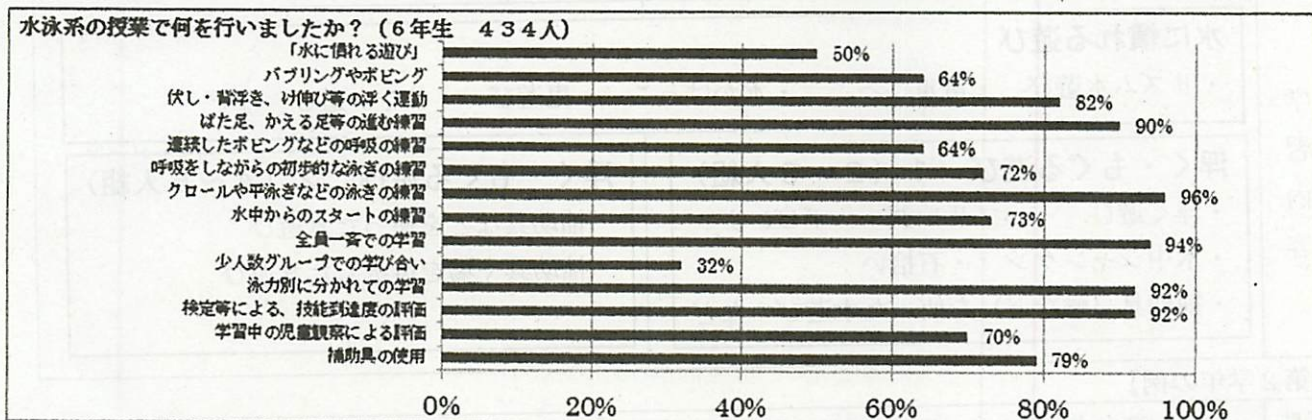
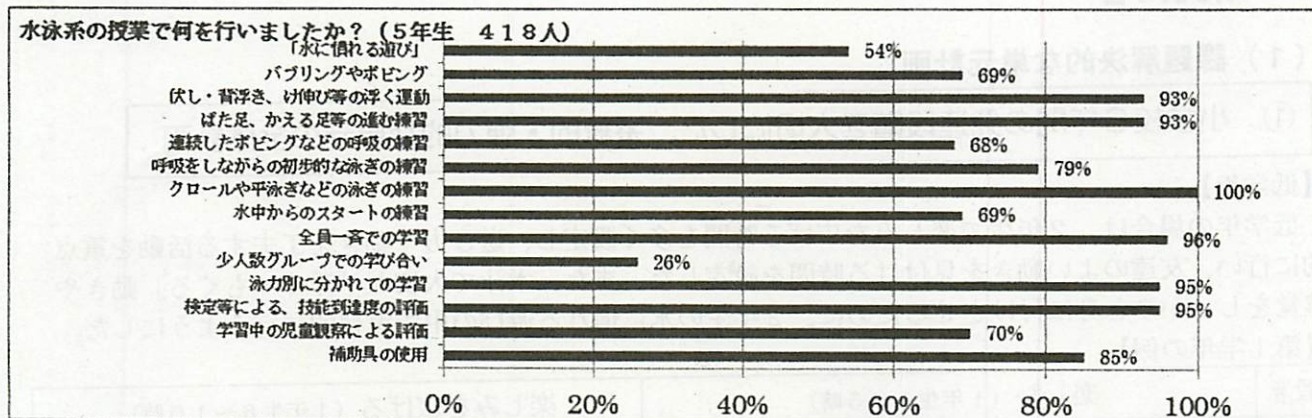


水泳系の授業で何を行いましたか？(3年生 382人)



水泳系の授業で何を行いましたか？(4年生 385人)





<分析>

【低学年】

- ・「クロールや平泳ぎなどの泳ぎの練習」は、1年生から2年生へ進むと19%から43%になる。

【中学年】

- ・「呼吸をしながら泳ぐ」といった初歩的な泳ぎよりも「クロール・平泳ぎ」といった泳法が実践されている。

【高学年】

- ・5・6年共通して90%を超える項目が5つある。

【全学年共通】

- ・「全員一斉での学習」の全学年平均は、96.8%
- ・「泳力別に分かれての学習」の全学年平均は、85.8%
- ・「少人数グループの学び合い」の全学年平均は、20.6%

<考察>

- ・中学年では、クロールや平泳ぎの泳法指導をほとんどの学校で行っているのに比べて、呼吸をしながらの初歩的な泳ぎの指導は少ない。浮く・泳ぐ運動での学習内容を明示し、中学年で大切にしたいポイントや感覚作りを提案する必要がある。
- ・全学年で共通して、ほとんどが「全員一斉での学習」を行っている。3～6年生では、大半が泳力別指導を行っているが、少人数での学び合いを行っているのは3割以下であることから、教師主導の学習が多いことがわかる。一人一人が自己の能力に応じた課題をもち、小集団での学び合いを通して課題解決を図る活動を提案する必要がある。

5 研究内容

(1) 課題解決的な単元計画

① 小学校6年間の発達段階を大切にした、系統的・弾力的な単元の全体計画

【低学年】

低学年の場合は、2年生で楽しみを広げる時間を多く設定し、遊び方や動きを工夫する活動を重点的に行い、友達のよい動きを見付ける時間を設定した。また、水泳で大切な「浮く・もぐる」動きや感覚をしっかりと身に付けさせるために、2年生の水に慣れる遊びの中で復習的に行うようにした。

【第1学年の例】

段階	楽しむ (1年生1~5時)	楽しみを広げる (1年生6~10時)
学習内容	水に慣れる遊び ・リズム水遊び ・電車ごっこ ・水かけっこ ・鬼遊び ・リレー遊び など	
	浮く・もぐる遊び 1 (2~3人組) ・浮く遊び ・バブリング ・ポピング ・水中ジャンケン ・石拾い ・補助具 (輪など) を使った水遊び など	浮く・もぐる遊び 2 (4~6人組) ・補助具などを使った水遊び ・補助具や場を選択した水遊び

【第2学年の例】

段階	楽しむ (2年生1~3時)	楽しみを広げる (2年生4~10時)
学習内容	水に慣れる遊び ・リズム水遊び ・電車ごっこ ・水かけっこ ・鬼遊び ・リレー遊び ・1年生で行った「浮く・もぐる遊び」など	
	浮く・もぐる遊び 1 (2~3人組) ・浮く遊び ・バブリング ・ポピング ・水中ジャンケン ・石拾い ・補助具 (輪など) を使った水遊び など	浮く・もぐる遊び 2 (4~6人組) ・補助具などを使った水遊び ・補助具や場を選択した水遊び ・友達のよい動きを見付ける活動

【中学年】

中学年の場合は、4年生で泳ぐ運動を重点的に行い、泳法につながる動きを身に付ける活動を行うようにした。

【第3学年の例】

段階	つかむ (3年生1~6時)	取り組む (3年生7~10時)
学習内容	今もっている力で楽しみ、気付く (水慣れ・感覚づくり) ・リズム水泳 ・浮く・泳ぐゲーム ・動きのポイントに気付き感じる活動 など	
	共通課題学習 (2~3人組) ○動きのポイントや補助の仕方 見合い方をつかむ ・浮き方・呼吸の仕方 ・クロールや平泳ぎの手や足の動き など	課題解決学習 (2~3人組) ○練習方法や場を選択して 浮く・泳ぐ運動に取り組む ・いろいろな浮き方 ・呼吸をしながらの初歩的な泳ぎ など

【第4学年の例】

段階	つかむ（4年生1～5時）	取り組む（4年生6～10時）
学習内容	<p>今もっている力で楽しむ、気付く（水慣れ・感覚づくり） ・リズム水泳 ・浮く・泳ぐゲーム ・動きのポイントに気付き実感する活動 など</p>	
	<p>共通課題学習（2～3人組） ○動きのポイントや補助の仕方 見合い方をつかむ ・浮き方・呼吸の仕方 ・クロールや平泳ぎの手や足の動き など ・呼吸をしながら進む</p>	<p>課題解決学習（2～3人組） ○練習方法や場を選択して 浮く・泳ぐ運動に取り組む ・いろいろな浮き方 ・呼吸をしながらの初歩的な泳ぎ ・初歩のクロール ・初歩の平泳ぎ</p>

【高学年】

高学年の場合は、児童一人一人の課題設定や学年・学級の実態に応じて学習を行うようにした。

【第5学年の例】

段階	つかむ（5年生1～4時）	取り組む（5年生5～10時）
学習内容	<p>今もっている力で楽しむ（水慣れ・感覚づくり） ・リズム水泳 ・リラックス水泳 ・○分間泳 ・スイム駅伝 など</p>	
	<p>共通課題学習（2～3人組） ○共通課題のもと運動のポイントを知ったり、自己の課題をつかんだりする ・クロール、平泳ぎの手・足の動き ・クロール、平泳ぎのリズム ※実態に応じて浮く・呼吸などの基礎的な動きも扱う</p>	<p>課題別学習（2～3人組） ○自己の課題に応じて、2～3人組で見合いながら、課題解決に取り組む ・初歩のクロール、平泳ぎ ・伸びのあるクロール、平泳ぎ ※実態に応じて浮く・呼吸などの基礎的な動きも扱う</p>

【第6学年の例】

段階	つかむ（6年生1～3時）	取り組む（6年生4～10時）
学習内容	<p>今もっている力で楽しむ（水慣れ・感覚づくり） ・リズム水泳 ・リラックス水泳 ・○分間泳 ・スイム駅伝 など</p>	
	<p>共通課題学習（2～3人組） ○共通課題のもと運動のポイントを知ったり、自己の課題をつかんだりする ・クロール、平泳ぎのリズム ・伸びのあるクロール、平泳ぎ ※実態に応じてクロールや平泳ぎの手・足の動きも扱う</p>	<p>課題別学習（2～3人組） ○自己の課題に応じて、2～3人組で見合いながら、課題解決に取り組む ・伸びのあるクロール、平泳ぎ ・スタート、ターン ※実態に応じて浮く・呼吸などの基礎的な動きも扱う</p>

② 3人組での学び合い活動を中心とした、課題解決を図る単元計画

【第4学年の例】

時	つかむ段階					取り組む段階					
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
	オリエンテーション	リズム水泳「R.Y.U.S.E.I.」									
	楽しみながら気付いたり実感したりする活動										
	いろいろな浮き方	グループで集団浮き		伏し浮きで浮きながら呼吸		より進むけ伸びの姿勢		背浮き			
	共通課題学習					小集団での自己の課題解決学習					自己の技能の向上を確認する活動
	1時	2時	3時	4時	5時	平泳ぎ系の課題		クロール系の課題		単元の振り返り	
	初歩のクロールの足と手の動き ①ビート板ばた足 ②面かぶりばた足 ③歩きながら手のかき ④手だけクロール	呼吸しながらの初歩のクロール ①呼吸しながら面かぶりばた足 ②呼吸しながら手だけクロール ⑤初歩のクロール ※必要に応じて前時の復習を行う	初歩の平泳ぎの足と手の動き ①腰かけかえる足 ②壁持ちかえる足 ③ビート板かえる足 ④面かぶりかえる足 ⑤手のかき	呼吸しながらの初歩の平泳ぎ ①呼吸しながら面かぶりかえる足 ②面かぶり平泳ぎ ③初歩の平泳ぎ	自分の力と課題をつかむ ①初歩のクロールの練習 ②初歩の平泳ぎの練習	・平泳ぎの足や手の動き		・クロールの足や手の動き			
	面かぶりの平泳ぎ、呼吸をしながらの初歩の平泳ぎ		・平泳ぎ(発展)		・クロール(発展)						
	本時の課題を意識して確かめ泳					本時の課題を意識して確かめ泳 小集団で伝えてもらったこと、見て理解したことを生かし、個人で課題を意識して泳ぐ。					

【グループ編成について】

課題解決学習を進めるにあたり、グループを泳力の異なる3人組として編成した。

泳力異質の3人組のメリットとして、次の点が挙げられる。

- 泳ぐ人、補助する人、動きを見て伝える人と、役割が分担でき、より友達の動きを見ることができる。
- 泳力の低い児童は、泳力の高い児童の泳ぎを見ることで、動きのポイントなどを知ることができる。
- 泳力の高い児童は、動きのポイントやコツを言葉にして伝えることで、動きの理解を深めることができる。

以上のことから、質の高い学び合いができると考える。

【楽しみながら気付いたり実感したりする活動】

教師が提示した動きについて、3人組で協力して取り組む。浮きやすい姿勢や呼吸の仕方などについて気付いたり、考えたり、実感したりする活動を行う。3人で協力して課題解決を図ることで、動きだけでなく、知識や協力する態度などの素地をつくる。

活動の仕方

- 教師が、本時に行う動きの課題を提示する。
- 3人のグループで、試行錯誤しながら考えてやってみる。
- 全体で、工夫した動きを行ったり、実感したことなどを伝えたりする。



【自分の力に合った課題をしっかりとつかむための共通課題学習】

課題解決学習では、自分がどこまでできているのか、何ができていないのか、明確な課題をつかむことが必要である。また、中学年では、的確な補助をすること、どの部位がどのようにできているか伝えることも重要である。そのため、単元前半の「つかむ段階」では、共通課題学習を取り入れた。「動きのポイントや練習方法を知り、自分の力に合った課題をつかむ」ことができるようにした。また、補助の仕方や練習時に見るポイントを知ることができるようにした。

第5時では、共通課題学習で学習した内容を確認し、「自分の課題に合っためあてを設定する時間」とした。

活動の仕方（第1～4時）

- ① **練習方法**、**動きのポイント**、**見る方法**、**補助の仕方**を知る。
- ② 1人目が提示された課題に取り組む。2人目、3人目は、補助をしたり動きを見たりする。
- ③ 1人目が泳ぎ終わったら、動きのできばえを伝え合う。
- ④ ②③を、役割を変えて行う。

【小集団での自己の課題解決学習】

3人組で、互いに補助したり、動きを見合ったり、できばえを伝え合ったりしながら、共通課題学習で得た知識などを生かし、「自己の課題に応じた練習方法や場を選択して取り組む」ようにした。場は、次の3つを設定した。

- A 「クロールや平泳ぎの足や手の動きを練習する場」
- B 「面かぶりクロールや平泳ぎ、呼吸をしながらの初歩のクロールや平泳ぎを練習する場」
- C 「クロールや平泳ぎ（発展）の練習をする場」



活動時は、プールの横方向を使って行うようにした。

活動の仕方（第6～9時）

「クロールや平泳ぎの足や手の動きを練習する場」

- ① めあてと練習方法を確認する。
- ② 1人目が自分の課題に取り組む。2人目が補助をし、3人目がめあての部位とポイントを水中の見やすい位置から見る。
- ③ できていたかどうかを伝える。→もっとこうしたらいいことも伝える。

「面かぶりクロールや平泳ぎ、呼吸をしながらの初歩のクロールや平泳ぎを練習する場」

- ① めあてと練習方法を確認する。
- ② 1人目が自分の課題に取り組む。2人目は必要なら補助をし、3人目がめあての部位とポイントを水中やプールサイドの見やすい位置から見る。補助がいないときは、2人目はプールサイドから、もう一人は水中から見る。
- ③ できていたかどうかを伝える。→もっとこうしたらいい、ことも伝える。

「クロールや平泳ぎ（発展）の場」

- ① めあてと練習方法を確認する。
- ② 1人目が自分の課題に取り組む。2人目（下位）が手のかき数を数え、3人目（中位・上位）が動きのできばえをプールサイドから見る。（プールサイドから）
- ③ かき数と、めあての出来栄を伝える。

【学び合いの例】

合い言葉①

Aさん 「**手** を **ももまでかけているか** を見ていてね。」

Bさん 「うん、わかった。」

(Aさん) 泳ぐ (Bさん) 見る (Cさん) 補助する。



右手はももまでかいてるけど、左手はかけてないな。

合い言葉②

Aさん 「どうだった？」

Bさん 「右手はももまでかけていたけど、左手はももまでかけていなかったよ」

合い言葉③

Aさん 「わかった。もう一度やってみるね。」（くり返す）

【言葉かけの目標】

- 泳力低位の児童…手のかき数を教える。めあてができていたか伝える。
- 泳力中位の児童…どこが、どのようにできていたか、できていなかったかを伝える。
- 泳力上位の児童…めあてのできばえと、動きの改善点を伝える。

(2) 学習活動に即した評価と指導方法

① 一般化するための重点化・簡略化された評価計画

【第4学年の例】

時数		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
指導のねらい		課題をつかめるようにする					課題解決に取り組めるようにする				
指導する内容	リズム水泳	<ul style="list-style-type: none"> 音楽に合わせて、友達と協力しながら進んで取り組もうとしている。(意欲・関心・態度) 									
	楽しみながら気付いたり実感したりする活動	<ul style="list-style-type: none"> 課題となる動きのポイントやよりよい工夫を理解している。(思考・判断) 									
	共通課題学習/課題解決学習	<ul style="list-style-type: none"> 共通課題のポイントを知り、理解している。 3人組での学び合いや浮く運動や泳ぐ運動の動きを身に付けるための練習の仕方を知り、理解している。 めあてのできばえを確かめている。(思考・判断) 					<ul style="list-style-type: none"> 自分の課題に合った練習方法や課題の場を選んでいる。 友達の泳ぎを見て、めあてのできばえを伝えている。 運動のポイントや友達からの助言を意識しながら泳いでいる。(思考・判断) 				
各時間の評価の重点化	運動への関心・意欲・態度	○		○							
	運動についての思考・判断		○		○	○	○		○		
	運動の技能							○		○	○
指導と評価の工夫		<ul style="list-style-type: none"> 児童の気付きや課題の把握のために、学習カードを活用する 3人組での学び合い学習の仕方を指導する。 ①めあてを伝える→②泳ぐ→③できばえを伝えてもらう→④もう一度泳ぐ 									

○ 指導と評価の一体化を図るポイント

単元前半の「つかむ」段階では、クロール系・平泳ぎ系の手のかき、足の動き、面かぶりクロール、面かぶり平泳ぎ、呼吸をつけた泳ぎを共通課題として取り組む。そうすることにより、初歩的な泳ぎを身に付けるためのポイントを知ることができるようにした。

単元後半の「取り組む」段階では、自分の課題に合った練習方法を選び、練習できるようにした。できていたら称賛する、課題のポイントとなる体の部位を見るといった学び合いができるように3人組(トリオ)で取り組むようにした。


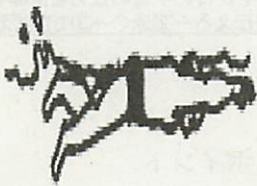
「取り組む」段階での3人組(トリオ)での学び合いでは、互いに泳ぎを見合い、めあてのできばえを伝え合いながら課題解決に向けて学習する。指導者は、「友達のどの動き着目するのか分かっているか」「友達の助言を参考にして自分の泳ぎに生かしているか」に重点を置いて評価する。課題と実態がずれている児童やつまづきがあって上手に助言ができない児童には、指導者が助言を適宜行う。

② 練習方法の資料の工夫

取り組む段階における、自己の課題解決学習において、児童の学び合い活動ができるよう、練習資料を作成した。それにより、つまずきやめあての例、共通課題学習で取り組んだ練習方法や見るポイントを確認できるようにした。それにより、自分の課題に合っためあてや練習方法を自分たちで選択できるようにした。

クロール系、平泳ぎ系それぞれの資料を用意し、プールサイドで確認できるようにする。

[資料の例]

	こまったなあ	めあての例	練習方法	できたかな?(見るポイント)
ばた足	○ばた足でうまく すすまない	○ももからばた足をする ○親指をさわるように キックする	ビート板ばた足 	○手がしっかり伸びているか ○ももからけているか ○おしりがういているか
	○ビート板ばた足は できるが、ばた足を するとしずんでい く。	○一本の線になるよう にばた足をする ○あごを胸につけて 面かぶりばた足をする	面かぶりばた足 	○足がしずんでないか ○耳を後ろにまっすぐ手を のばしているか

児童のまくいかな
い例を挙げ、練習
方法を選択させる

「○○を○○す
る」というめあて
にし、学び合いで
見る部位を明らか
にする




練習方法を分かり
やすい図で表すよ
うにした

できたかどうかを
分かりやすくし、
児童同士でめあて
のできばえを伝え
やすくした。

③ 児童の課題解決能力を伸ばす学習カード



課題解決の能力を伸ばすために、本部会では、「知る」「見付ける」「選ぶ」「振り返る」活動が重要であると考えた。運動の行い方を理解し、自分の現状と比較しながら課題を設定し、その課題を解決するために活動を選択し、振り返りながら学習を進めることのできる学習カードを作成した。

(1) つかむ段階

学習3 共通課題でつかむ (1) グループ別学習	 <p>ももから動かす (◎・○・△)</p> <p>水を送るように (◎・○・△)</p>	 <p>あごをひく (◎・○・△)</p> <p>ももにタッチ (◎・○・△)</p>	<p>提示された課題と、自分の現在の状態を3段階で評価する。</p>  <p>動きのポイントや見つけた動きのコツを自分の言葉で記入する。</p>
ふりかえり ◎ とてもそう思う ○ そう思う △ あまり思わない	①できた	気付いたこと	①できた
	②わかった		②わかった
	③学び合えた		③学び合えた
ここをこうしたい			ここをこうしたい

自分の課題を記入する。

(2) 取り組む段階

学習内容	クロールと平泳ぎ	めあてを立てて、平泳ぎに取り組もう								
学習3	 <p>自分の設定した課題をもとに、めあてを立てる。</p> <p>練習する場や練習する方法を選択する基準とする。</p>	<p>めあてを立てて練習しよう</p> <p>(手のかき・キック・呼吸 等)</p> <p>平泳ぎ</p> <p>の [] のとき</p> <p>(どのようにする)</p>								
自分の課題に取り組む (1)	<p><平泳ぎ></p>  <table border="1"> <tr> <td>手のかき</td> <td>◎・○・△</td> </tr> <tr> <td>かえる足</td> <td>◎・○・△</td> </tr> <tr> <td>呼吸</td> <td>◎・○・△</td> </tr> <tr> <td>伸びて進む</td> <td>◎・○・△</td> </tr> </table> <p><ここを こうしたい></p>	手のかき	◎・○・△	かえる足	◎・○・△	呼吸	◎・○・△	伸びて進む	◎・○・△	<p>練習した場</p> <p>の []</p>
手のかき	◎・○・△									
かえる足	◎・○・△									
呼吸	◎・○・△									
伸びて進む	◎・○・△									
ふりかえり (◎・○・△)	①学習ができた	①学習ができた・わかった								
	②進んで取り組めた	②進んで取り組めた								
	③友達と協力してできた	③友達と協力してできた								
	④めあてに向けて練習した	④めあてに向けて練習した								
気付いたこと 思ったこと										

選択した練習の場及び練習方法を記録する。

本時の学習を振り返り、次時のめあてを立てる。